



学校法人 昭和女子大学



# SHOWA WOMEN'S UNIVERSITY

学校法人

昭和女子大学

2024年度

事業計画書



## 理事長メッセージ

本学園は、「世の光となろう」を建学の精神として1920年に設立されました。

清き気品、篤き至誠、高き識見を校訓三則として、自立心をもって社会で活躍できる女性を育て、2020年には創立100周年を迎えました。

2022年3月、学園の『使命』MISSIONと『将来構想』VISIONを達成するために、新たな5年間の中期方針(2022-2026)を表明し、組織、事業、教育、業務の到達目標値を重要な経営指標(KPI)として示しました。本年度は新中期方針のもと、各部門が事業を計画、実行する3年目となります。

我が国は地球温暖化への対応、国際平和への貢献等、多くのグローバルな課題を抱えており、国内を見ても持続的な成長や少子化対応等、喫緊の課題に対応していく必要があります。また、私学行政に目を向けると、2025年度開設申請分から、大学設置認可審査の基準が厳格化され、定員未充足大学・超過大学の私学助成も厳しく精査されるとのことです。

予断を許さない社会情勢が続くなかで、本年度の事業計画作成にあたっては、高度な人材育成の必要性がますます求められることを念頭に、こども園から大学院まで一貫して教育のグローバル化を目指し、今後も少子化等、外部環境の及ぼす影響を最小限に留めつつ、教育の質の向上のため、大胆な変化と新たなチャレンジをモットーに立案しました。

本年度の主なトピックを挙げると、大学は文理融合やデジタル化に対応すべく、新学部設置の検討を進めると共に、2025年度にむけて国際学部新学科の開設、文学研究科新専攻開設の準備を進めます。また、外国人留学生を対象とした日本語教育プログラム及び多文化理解教育プログラムを開設する日本語教育センターを設置します。本年度も、18年連続で高い実績を誇る実就職率を維持しつつ、優秀な学生の社会への輩出を目指します。

附属校に関しては、中高部では今後の社会を見据えての教育力の向上と質の保証を骨子とした“SHOWA NEXT”の高度化と新カリキュラムの検討、初等部においては、国際コース及び探究コースがスタートし、ES24プラン\*にもとづくプログラムが始動します。 \*「資質・能力ベースの学校づくり」を目指した教育活動改革ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和、駒澤パークインターナショナルスクールとの全学的な連携も引き続き強化します。

建学の精神に鑑み、本年度も持続的な発展と社会的に評価される学園を目指し、学園の経営基盤、組織を強化すると共に、全てのステークホルダーとの関係を強化し、新たな時代に相応しい教育理念の具現化を図ってまいります。

本学園との関わりを持ち、本年度の事業計画にご関心を抱かれた皆様方のご指導、ご鞭撻並びにご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年4月

学校法人 昭和女子大学  
理事長 山崎 日出男

## 目次

- 01 理事長メッセージ
- 02 目次・中期方針
- 03-07 昭和女子大学(学長挨拶／将来像実現に向けた施策／施策詳細)
- 08-10 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校(校長挨拶／将来像実現に向けた施策／施策詳細)
- 11-13 昭和女子大学附属昭和小学校(校長挨拶／将来像実現に向けた施策／施策詳細)
- 14-16 昭和女子大学附属昭和こども園(園長挨拶／将来像実現に向けた施策／施策詳細)
- 17-20 法人部門(本部長挨拶／将来像実現に向けた施策／施策詳細)

## 中期方針(2022年度から2026年度まで)

2022年度以降5年間の中期方針では、次の3つの「学園の持続的な発展のための重点目標」を掲げ、女子大学としての独自性を確立し、卓越した教育機関を目指します。

- ① 自立・自律し、グローバルに活躍する人材の輩出 女性活躍を牽引する教育機関として、社会における課題や障害を克服する多様かつ力強い女性リーダーを育成する。そのために、個性を活かし、自ら考え、行動する主体的な学びを促す教育プログラムやリーダー育成プログラム、未来を切り開く進路・キャリア支援を実施する。また、異文化コミュニケーション能力を持ち、グローバルに活躍する人材を育成するため、キャンパスのグローバル化を更に推進し、グローバル教育や異文化交流の機会を拡充する。
- ② ステークホルダーによる「昭和コミュニティ」の形成 在学生・教職員を中心に、保護者、こども園から大学院まですべての卒業生、退職した教職員、BST・KPIS・TUJ、連携する企業・自治体等、多様なステークホルダーからなる「昭和コミュニティ」を形成し、学園全体の教育力向上を支える基盤を強化する。そのために、ステークホルダーと学園との関係を深化させる取り組みを推進すると共に、ステークホルダー同士がつながり、新たな価値を創造するプラットフォームとしての機能を構築する。
- ③ 組織体制の強化及び教職員のエンゲージメントの醸成 常に時代の要請に応え進化し続ける学園を目指し、組織体制を強化すると共に、教職員のエンゲージメントを醸成する。そのために、組織体制の強化に向けた施策の実施や各種人事制度の整備、FD(Faculty Development)・SD(Staff Development)活動の充実を推進する。また、学園の『使命』MISSIONと『将来構想』VISIONや新たな取り組みについての情報を教職員が共有し、協働する環境を整備する。

# 昭和女子大学

## 持続的な改革推進

### 将来像実現に向けたメッセージ

変化の多い時代においては、迅速な対応と十分に計画された内容・プロセス等を両立させることが重要である。大学においては本学園の理念、ビジョンを鑑みながら対応すべき事項に対しては積極的に、しかしそのプロセスにおいては、しっかりと検討する姿勢を保っていく。

将来構想においては本学の特色であるグローバル教育のための組織改革や留学生獲得の方策を新たに企画すると同時に、文理融合やデジタル化に対応すべく新学部・学科の計画を行う。教育研究環境に関しては引き続きさらなる充実を図り、学生、職員、教員にとってより良い大学空間をデザインしていく。

2024年度の事業計画の方向は2022年度、2023年度の事業を引き継ぎ、見直していく過程であるが、一方、更なるチャレンジを企画し、大学の一層の発展を目指す。

学長 金尾 朗

### 将来像実現に向けた施策

- 1 | 将来構想と組織体制の強化
- 2 | 教育内容の充実
- 3 | 研究活動の推進
- 4 | 学生支援の充実
- 5 | グローバル化の推進
- 6 | キャリア教育・支援
- 7 | 地域連携・社会貢献
- 8 | 学生募集

## 施策1 将来構想と組織体制の強化

建学の精神に基づく教育理念・目的に則り、時代の変化に先駆けて、社会が求める人材を養成し、現代社会の要請に応えた先駆的な教育環境を構築すると共に教育研究組織の強化を図る。

### ① 課題・背景

大学を取り巻く環境が急激に変化する中、社会が求める人材を養成するため、大学・大学院における新たな教育プログラムの創出、及びそれに伴う教育研究組織の強化が求められている。

### ② 目標

- 国際学部及び文学研究科の改組
- デジタル分野の学部設置
- 教育研究組織の強化

### ③ アクション

- 国際的なキャリア形成として観光産業や地域振興において活躍できる人材の養成を更に進めるため、国際学部の新学科開設に向けた教育環境を整備する
- 専門性の深化・学際領域の教育の導入・専門を異にする学生間の相互交流と研鑽を図るため、文学研究科を1専攻に統合し効果的な運営・指導体制を整備する
- より専門的なデータサイエンス人材を養成するため、デジタル分野の学部設置に向けた準備を進める
- 教育研究組織を強化するため、定期的な自己点検を実施する。並びに本年度は認証評価を受審する

## 施策2 教育内容の充実

教育の改善による教育目標、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの具現化を図り、併せて学生が主体的に学ぶ環境を整備する。

### ① 課題・背景

現代社会は、変化が激しく予測が難しい時代であり、このような社会情勢下において、自身の可能性を最大限に発揮するためには、自ら学び、考え、行動する力を身に付けることが不可欠となる。

### ② 目標

- 学生が計画的に学修できる環境を整備するために、カリキュラムマップやカリキュラムツリーを活用して弾力的かつ柔軟なカリキュラム編成を図る
- 学生のディプロマ・ポリシー達成と、教育の質の向上を図る
- 学生がディプロマ・ポリシーの達成状況を常に把握しながら、主体的に学修できるよう、学習成果の多面的測定と正課外教育も含む学習成果の可視化を行う

### ③ アクション

- カリキュラムヒアリングを通してカリキュラムの点検を行う
- 学問の体系・段階に従った一層効果的な履修を可能にするため、ディプロマ・ポリシーと開設科目の関係がわかるよう、シラバスの内容を見直し学生に周知する
- 「学習成果に関する自己評価と学習状況に関するアンケート」を実施。学生自身が正課外教育(学寮研修等)やディプロマ・ポリシーの達成度について自己評価を行い、学修ポートフォリオを活用できるよう支援する

### 施策3 研究活動の推進

社会に広く貢献する研究活動の推進及び研究領域の拡大を促進するため、高い専門性と独自性及び国際競争力を有する研究者を養成すると共に、研究環境の整備を進め、研究成果を教育、社会へ積極的に還元する。

#### ① 課題・背景

本学ではこれまで、様々な時代背景や社会課題に基づいた研究が評価され、外部資金の獲得及び社会連携を拡大してきた。一方で、研究のグローバル化が進むなか、研究倫理を遵守しながら、各研究者の専門性や独自性を尊重し、研究遂行力・国際競争力を高める工夫が求められている。

#### ② 目標

- 科研費をはじめとする外部資金の採択率向上及び受入件数の拡大
- 研究に関する学内制度の改善
- 国際学会での発表数増加、研究成果の積極的な発信
- 研究倫理意識の向上及び研究に関する国の方針へ対応

#### ③ アクション

- 科研費や委託研究費等の外部資金獲得支援を行う
- 学内研究費制度について、より執行しやすくするための見直しを行う
- 各研究所や研究者による積極的な研究成果の公開、社会還元のための取り組みを行う
- 学部生、大学院生、教員等キャリアステージに応じた研究倫理教育の実施及び国の方針に対応する学内制度の構築を検討する

### 施策5 グローバル化の推進

すべての学生に、より高度なグローバル教育の機会を提供するため、昭和ボストンや海外協定校等での留学プログラムを更に発展させると共に、外国人留学生を積極的に獲得し、キャンパスのグローバル化と国内プログラムの充実を図る。

#### ① 課題・背景

ポストコロナの時代となり、学科に関係なく、すべての学生がグローバルな環境の中で多様な背景を持つ人と協働して活躍するための知識とスキルを修得することが求められている。そのため、海外／国内プログラムの高度化、参加しやすい環境の整備、外国人留学生にとっての魅力ある大学づくりが課題である。

#### ② 目標

- 昭和ボストンを中心とした海外留学プログラムの充実と留学経験を活かしたキャリア教育の強化
  - 日本語教育センターを活用した留学生教育の充実
  - S-GLAP\*を軸にした全学的なグローバル教育プログラムの拡大
- \*Showa Global Liberal Arts Program

#### ③ アクション

- 昭和ボストンのカリキュラムを見直し、選択科目(リベラルアーツ)の再編によって東京校との密接な連携を図るとともに、現地のコミュニティへの参加型フィールドワークを増やす
- 日本語教育センターを設置し、留学生向けの日本語科目の集約や国際共修科目の強化等、外国人留学生向けカリキュラムを充実させる
- S-GLAP第1期生向けのGLAPゼミの開講、学科学年を超えた体験の共有、対象科目やプログラムの充実を図る

### 施策4 学生支援の充実

社会における課題や障害を克服し、自立・自律してグローバルに活躍する女性リーダーを育成するため、学生たちの個性を活かし、自ら考え、主体的に行動する課外活動の機会を提供していく。更に、アフターコロナに応じた新しい形の学生支援を実現する。

#### ① 課題・背景

自立・自律したリーダー育成のため、学友会活動、学寮研修等の改革による、学生の主体性を重視した活動や果敢にチャレンジする機会の創出が重要である。またコロナ禍で失われた対面でのコミュニケーション力や精神的な不安をサポートしていくことも課題である。

#### ② 目標

- 学生の自立・自律を促し、学生主体で行動できる文化の醸成を目指す
- テンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)との学生主導の継続的な交流を推進する
- 保健管理室、学生相談室、障がい学生支援室の利用者数増加に対応するため、3室連携による支援強化を目指す

#### ③ アクション

- 学友会活動やプロジェクト型学寮研修、秋桜祭等を通じて学生が自ら挑戦し、企画・立案・実行できる環境を整備する
- 学友会の各委員会活動を通じて、年間を通じた学生主体の交流イベントの実施を支援する
- 保健管理室、学生相談室、障がい学生支援室を希望学生がスムーズに利用できるよう、大学提供サービスの周知を強化する。3室における情報共有を活発化し、より充実した新しい学生相談対応の在り方を実現する

### 施策6 キャリア教育・支援

新卒の採用選考が年々早期化する中で、いち早く自身の仕事観や仕事軸を見つけ、多種多様な進路先から主体的に選択できる学生の育成を目指す。また、女子大学で最高レベルの高い就職率を維持すると共に、就職における質の向上を目指す。

#### ① 課題・背景

採用選考の早期化に伴い、学生は早い時期から自身の志向や適性を考えることが求められる。また、就職を短期的な目標としてではなく、将来の生き方の入口として捉え、長期的なビジョンをもってキャリア形成を考えなければならない。そのため学生支援の一層の体制構築に取り組む。

#### ② 目標

- キャリア教育の実践により学生の意識・視座を高める
- 低学年への支援強化
- インターンシップ・オープンカンパニーへの参加促進
- 女性活躍推進企業の開拓と連携の強化
- 女子大学生のロールモデルとなる社会人メンター制度の活用強化

#### ③ アクション

- 全学共通教育センターが実施するキャリア教育の内容理解に基づき、体系的なキャリア支援を1年次から実践する
- 低学年から体系的な就活支援講座を構築・実施することで、主体的に行動できるチャレンジ層の育成を図る
- インターンシップの実施内容を精査のうえ、質の高い情報を学生に提供し、参加を促す
- 高い就職率を維持すると共に、「女性の活躍を推進する企業」への就職を支援し、「就職の質」の向上も図る
- 専門分野に強い社会人メンターの登録も充実させ、学生の活用度の向上を図る

## 施策7 地域連携・社会貢献

多様なプロジェクトを通じた地域・社会における協働環境を創出し、豊富な実務経験を持つ研究員対象の研究支援、リカレント教育の場の提供を行う。また、イノベーションの源泉たる「多様性」を柱に、企業・団体における女性活躍を軸としたダイバーシティ経営と社会人の生涯キャリア形成を支援する。

### ① 課題・背景

学生・研究員が、産官学協働の取り組みの中で学びを得ると共に、地域・社会の課題解決のための取り組みを行い、本学の教育研究成果を社会に還元することが大学の使命である。また、グローバル化・少子高齢化が進む状況下において、女性の活躍推進は日本の成長維持・向上のための重要なポイントである。

### ② 目標

- 多様なプロジェクト・ベースドラーニング(PBL)の企画・推進により、地域や企業の課題解決に貢献する
- 研究員への研究支援・相互交流の機会提供等により、リカレント教育の場の創出と研究の質の向上に取り組む
- ダイバーシティ経営と社会人の生涯キャリア形成のための研修プログラムについて、質向上及びさらなる受講者の獲得を目指す

### ③ アクション

- 本学全学生対象のプロジェクト・ベースドラーニング(PBL)における産学官の連携を強化する
- 各種講演会や交流会の定期的な開催に加え、研究員のピアサポートの一環として昨年度開設した「Special Interest Group」の一層の活性化を図る
- 受講者へのアンケート結果や参加企業担当者等へのヒアリング結果を踏まえて、次年度の研修プログラムを見直し、充実させる。また、webと紙面を効果的に活用した広報活動を展開する

## 施策8 学生募集

加速する少子高齢化に対応するため、既存の広報、入試制度を見直し、アドミッション・ポリシーに沿う入学者を安定的に獲得する戦略を展開する。

### ① 課題・背景

18歳人口の減少に伴い、大学受験の取り巻く環境が変化し、受験生から選ばれる大学であり続けるために、広報活動や入試制度を継続的に見直すことが求められている。  
また、留学生や社会人学生等多様なバックグラウンドをもつ受験生に対してもアプローチする広報活動や入試制度の整備が課題である。

### ② 目標

- 志願者数の増加
- 正規留学生の獲得
- 社会人大学院生の獲得

### ③ アクション

- 高等学校との連携を強化し、協定校入試の拡充を行う等入試改革を継続する
- 既存の広報活動を見直し、メディアやSNSを活用した広報を展開する
- 日本語学校との連携を強化し、留学生に向けた広報や入試制度を検討・実施する
- 大学院と協働で、企業や自治体等と連携し、社会人のニーズに即した広報活動を展開する

## 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

### 生徒の進路選択肢の拡大と高大連携強化に向けて

#### 将来像実現に向けたメッセージ

新中期方針(2022-2026)の3年目の2024年度は、「創立理念」実現のため、現代の社会情勢を踏まえて、手法をUPデートをしながら以下のように取り組む。

[教育]

- ①コースの再ブランディングによる魅力UP
- ②主体的に自立して学習や教育活動に取り組む力、協働して学ぶ力、自立した精神力、互いを尊重する力を育成する
- ③昭和女子大学からの教育リソースのより一層の支援を得ながら、他大学との高大連携協定締結で、生徒の進路選択の幅を広げる  
また生徒が自分の進路戦略をたて、それに計画的に取り組んで学びに挑戦するマインドと学力の伸長を目指す
- ④授業力向上による生徒の学習意欲の向上と学力向上による進学実績向上を目指す

[学校環境]

- ①心理的な安心安全な学習環境、職場環境を実現するための改革を進める
- ②ICT活用を含めた施設設備環境の整備
- ③教員の指導力向上のための働き方改革の推進

校長 真下 峯子

#### 将来像実現に向けた施策

- 1 | 各コース再ブランディングを進め、教育活動の質を更に向上することにより在校生へ寄与する
- 2 | 全ての生徒に対するグローバル教育・STEAM教育の推進
- 3 | 心理的安心・安全の担保のための改革の推進
- 4 | 自ら学ぶ力とマインドの醸成、探究活動を軸にしたキャリア教育の推進

## 施策1

### 各コースの再ブランディングを進め、 教育活動の質を更に向上することにより在校生徒に寄与する

入学生・在校生の学びへの意欲がますます高くなり、教育内容の質の向上が更に求められる。各コースの特徴・目標を明確にし、その目標の達成により、生徒の学びや・進路の選択肢を拡大する。

#### ① 課題・施策の背景

3コースが設置後複数年経過したことから、各コースの教育の達成目標について、振り返りを行い、その目標を更に明確化・深化させる必要がある。特にメインストリームの本科コースの教育活動、カリキュラム見直しも含め、昭和女子大進学だけでなく生徒の他のキャリア志望を実現するため高大連携を更に進め意欲・能力の開発・伸張を図る。

#### ② 施策

- 本科コース再ブランディング
- グローバルコース再ブランディング
- サイエンスコース再ブランディング
- キャリア教育講演会の定期的な実施
- 保護者会をキャリア教育・進路勉強会として再構築する
- 高大連携の推進

#### ③ ポイント

- 各コース訴求点を明確にできたか
- キャリア教育講演会を定期的に開催し、生徒のリフレクションをとり、成長の実態を把握できたか
- 保護者への情報提供が十分にできたか
- 高大連携が5大学以上進んだか

## 施策3

### 心理的安心・安全の担保のための改革の推進

学校生活に関する規則の見直しを進め生徒がのびのびと学校生活を送るための新しいルール作りを生徒と共に行う。また教職員にとっても働きやすい職場環境を整え、生徒の指導に専念する時間を確保する。

#### ① 課題・施策の背景

自ら課題を発見し、その解決のための戦略を構築して取り組む力の育成が求められている。改めて学校行事をそれらの力育成のための探究活動として位置付け指導体制を見直すことにより、更に生徒たちの自立した活動への取り組みの意欲向上ができる。また生徒たちがのびのびとした学校生活を送ることを支援できる教員の指導力の向上と働き方改革を進める必要がある。

#### ② 施策

- 探究活動として文化祭・体育祭の企画運営、学寮研修、宿泊研修を再構築
- 中学校:ソーシャルスキルトレーニングカリキュラム作成・実施
- 生徒会活動の中高一貫体制・規約の見直し
- DX構想整備と教員の研修システムの構築、活用指導スキルの向上
- 社会変化に対応する柔軟な教員組織文化の醸成のための組織改革

#### ③ ポイント

- 学校行事運営での探究活動が進んだか
- ソーシャルスキルトレーニングによる生徒の行動変容
- ICT活用スキルの格差是正達成度
- 外部研修、自己研修等の研修への参加状況
- 業務の見直しによる教材研究等の時間確保

## 施策2

### 全ての生徒を対象としたグローバル教育・STEAM教育\*の推進

\*教科を横断しながら学ぶ新たな学習スタイル

文系自認、理系自認にかかわらず、これからの時代に求められるグローバルの視点とコミュニケーションのための英語力、STEAM力を全てのコースで育成するための仕組みを作って実施する。

#### ① 課題・施策の背景

貢献の意欲や実際の取り組みの土台となる、基礎学力の定着は必須の課題である。大学の附属校ではあるが、思考するための基礎学力と知識がなければ、これからの時代に必要な力を身につけるための探究活動に取り組むことができない。基礎基本の確かな学力の定着と英語力、STEAMの獲得を目指す必要がある。

#### ② 施策(全てのコースで)

- 英語指導計画・副教材の見直しと成果のアセスメント
- オンライン・生成AI等活用による会話トレーニング
- BSTとのコラボレーション
- 数学指導方法の研究、大学入試問題の検討
- 1-5年プログラミング特別授業
- 4年DS特別授業
- 探究学習の推進

#### ③ ポイント

- 英検2級取得率の向上
- TBMのリフレクション分析・次の学年へ情報提供ができたか
- 英語を使ったコミュニケーション力のアセスメントで指導法の改善ができたか
- Pythonプログラミングに取り組んだか
- BSTとの連携が増加したか
- 探究学習の成果の客観的評価

## 施策4

### 自ら学ぶ力とマインドの醸成、探究活動を軸にしたキャリア教育の推進

生徒が自らの現在の力や学習状況を俯瞰しメタ認知力を開発するために、探究活動を軸にしたキャリア教育の再構築とそれに沿った、アセスメント方法も含めて実施する。

#### ① 課題・施策の背景

社会情勢が激しく変わる時代に生きる生徒たちに必要な力は、自ら学ぶ力とメタ認知力である。また、自らの将来を俯瞰した学習への取り組みのロードマップを作るためのキャリア教育のロードマップの整備も重要である。これらの学校としての仕組みの再構築と外部のリソースの活用を進める必要がある。

#### ② 施策

- 自立した学習者を育成するための授業研究の継続
- 6年間を通じたキャリア教育進路指導体制の再構築
- 高大連携による専門家の指導や学生メンターの配置
- 昭和女子大学教育リソースの活用のための協力体制の構築
- 他校交流による生徒の活動のメタ認知力の向上とそのアセスメント

#### ③ ポイント

- 授業公開研究会実施
- キャリア教育のロードマップが再構築できたか
- 高大連携による生徒の活動マインドが向上したか
- 昭和女子大学の教育リソースの活用が進んだか
- 他校交流による生徒のメタ認知の変容

## 昭和女子大学附属昭和小学校

### Lead yourself ~自分リーダーシップ発揮できる子に~

#### 将来像実現に向けたメッセージ

初等部は、『世の光となろう』という学園目標と3つの初等部の目標のもと、未来社会を生きる子どもたちのために、自分のよさや可能性を信じ、あらゆる他と協働しながら新たな価値を創造し、持続可能な社会に貢献できるように人づくりを目指している。

また、自尊感情に裏打ちされた主体性を育むべく、5つの資質・能力「自分づくり・コミュニケーション・思考力・表現力・持続チャレンジ」を掲げ、子どもたちの「自分リーダーシップ」の発揮を支えている。2024年春には、培ってきた70年の伝統を基盤に、「探究コース」「国際コース」の2つのコースを開設し、探究の学びの重視と英語イマージョン教育の推進等で、グローバル時代に活躍でき、社会でたくましく生きる力を育む。

校長 前田 崇司

#### 将来像実現に向けた施策

- 1 | 資質・能力ベースの学校づくり
- 2 | グローバル社会に生きる英語教育と探究の学びの推進
- 3 | 学習指導の充実と学びの環境の整備、及び、教員の力量向上とサポート体制の確立
- 4 | 募集活動の強化、学内外の連携

### 施策1

#### 資質・能力ベースの学校づくり

##### 主体性をはぐくむ「5つの資質・能力」とカリキュラムの運営・改善

主体性を育む5つの資質・能力(「自分づくり」「コミュニケーション」「思考力」「表現力」「持続チャレンジ」)の育成に向け教育活動を推進する。また、グローバル社会に生きる世界基準の力を育む「国際コース」、社会でたくましく生きる力を育む「探究コース」それぞれについて、不断のカリキュラム運営及び改善に努める。

#### ① 課題・施策の背景

ES24プラン\*による主体性を育む5つの資質・能力を培う教育課程を実行する中で、児童の状況を適時把握しながら、柔軟かつ着実な学びの実現が図られるように恒常的な評価・改善の取組が必要である。

\*「資質・能力ベースの学校づくり」を指した教育活動改革

#### ② 施策

- 5つの資質・能力の育成を視点としたカリキュラムの改善
- 児童の実現状況をもとにした指導と評価の一体化による授業の改善
- 教科等横断的なカリキュラムマネジメントの推進

#### ③ ポイント

- 診断的評価・形成的・総括的評価を重視した児童の実現状況の把握
- 学力テスト等評価に係るエビデンスをもとにしたカリキュラム及び授業の工夫・改善
- 教科等における5つの資質・能力に係る単元指導計画と評価計画の改善

### 施策2

#### グローバル社会に生きる英語教育と探究の学びの推進

##### ケンブリッジ国際の導入と英語イマージョン教育の推進(国際コース) 体験を重視した昭和らしい探究の学びの推進(探究コース)

グローバル社会に生きる英語教育の推進と、社会でたくましく生きる探究の学びの充実により、児童の主体的な学びを支えると共に、基礎学力の定着を図る。

#### ① 課題・施策の背景

開設する「国際コース」においては、英語力の着実な育成強化が求められる。また「探究コース」や2学年以上の学年においては、探究の学びの質向上と確かな学力の向上が期待される。

#### ② 施策

- 「ケンブリッジ国際」の一部導入と、英語イマージョン教育の推進(国際コース)
  - 探究(的)学びの一層の推進と単元計画の改善及び開発(探究コース)
  - STEAMS教育\*を視点とした教科横断の学びの創造と時数管理等マネジメント(探究コース)
- \*教科を横断しながら学ぶ新たな学習スタイル

#### ③ ポイント

- 「ケンブリッジ国際」及び英語イマージョンによるカリキュラム進捗と評価改善(国際コース)
- 「昭和っ子の研究」の単元開発と進捗・評価(探究コース)
- STEAMS教育に係る横断的カリキュラムの作成
- 時数等の適切な管理・運営

### 施策3 学習指導の充実と学びの環境の整備、及び、教員の力量向上とサポート体制の確立 教育課程特例校としての新コースの着実な運営、組織体制の強化

教員の力量向上を図るべく、授業力やマネジメント力等の向上のための研究や研修を充実させる。また、児童の学習の定着を図るため、関係リソースを活用した学習サポート体制を整備する。同時に教員としてのやり甲斐やモチベーションの維持向上に努める。ES24プランの実行にあたり、開設したコースの円滑な運営体制を確立すると共に、教育課程特例校として、特色ある教育課程の運営改善に努め、持続可能な組織としての体制を確立していく。

#### ① 課題・施策の背景

児童一人ひとりの資質・能力の向上のためには、教員の指導力と引き換えに授業力の向上が欠かせない。同時に、教員にとってのやり甲斐やモチベーション、所属意識を高めていくことが安定した教育環境の一助となる。  
教育課程特例校として、特色あるカリキュラムを編成し組織を運営していくことが求められる。実践による成果と課題を抽出しつつ、恒常的に改善できることと、次年度に活かすことを見極めていく必要がある。

#### ② 施策

- 授業力向上のための校内研究の推進
- 教員のキャリアごとの研修の充実
- 力量向上につながる目標管理による人材育成
- よき同僚性につながる研修体制の試行
- 教科等や総時間数の時数管理と教育課程の着実な進捗管理
- コースごとの運営体制の確立と学年及び組織としてのガバナンス管理
- 教員による協働体制の確立と働き方改革による負担軽減

#### ③ ポイント

- 授業を伴う校内研究による組織的な力量向上
- キャリアステージを意識した研修の継続
- 育成指標の活用による自己目標の設定と目標管理による人材育成
- メンターチーム等、研修体制の試行
- 配置したコーディネータとコース長によるマネジメント推進

### 施策4 募集活動の強化、学内外の連携 入試及び広報活動の工夫と関係リソースとの連携

かつてない出生数の減少による少子化が進む中、今後も選ばれ続ける学校として積極的かつ戦略的な広報活動の推進が肝要である。また、学内外の様々な情報交換により、関係リソースとの連携を強化する。

#### ① 課題・施策の背景

70万人台半ばとなる出生数の減少は、志願者の動向を含め今後最も注視すべき環境変化である。新コース開設に伴い、継続して志願者ニーズを把握して今後の広報戦略に活用していくことが求められる。また、附属間やBST、TUJをはじめとした学内外の様々な教育機関との連携を充実させていく必要がある。

#### ② 施策

- 新コース開設に伴う志願者動向の分析と広報戦略の立案
- 入試広報に関わる関係リソースの活用
- 教育活動の適切な管理と公正な評価による学校運営の改善
- 附属間や各部門との連携強化
- 父母会や同窓会との連携推進

#### ③ ポイント

- 志願者動向の適時での情報把握
- 説明会や相談会等、広報活動の充実
- 学校運営の安定したマネジメントと入試広報との連携
- 附属間等、内外連携の推進
- 父母会や同窓会との継続的かつ協働的な活動の推進

## 昭和女子大学附属昭和こども園

### 恵まれたあそびの環境と専門性豊かな教育活動の充実

#### 将来像実現に向けたメッセージ

「世の光となろう」という建学の精神のもと、子どもたちが「地球の子ども」として豊かにたくましく育ち、20年後に輝く存在であるよう、生きる力の基礎を育てていく。  
知識詰め込み型の教育ではなく、「豊かな経験」を通して、いろいろなことを感じ、自分なりの考えを見つけ出し、夢中になって遊びこむことで思考力を育む。また、同年齢・異年齢の友だちとの関わりの中で、時には異なる考えを話し合いながら、思いやりや適応力を養う。「あそび」の充実こそが深い学びとなり、教育・保育の質の向上につながる。  
中期方針5か年の3年目、他園では成すことのできない、この学園の恵まれた教育・保育環境を十分に活用し、アピールしていくことで、昭和の一員としてのメリットを活かしていく。

園長 北村 秀人

#### 将来像実現に向けた施策

- 1 | 園内組織の再調整
- 2 | 本物に触れる経験の充実
- 3 | 学園・地域との積極的な連携



## 施策1 園内組織の再調整

最短で生後57日でお預かりする0歳児から、就学前の6歳児までが在籍するこども園の中で、乳児保育、幼児教育・保育、夕方をメインとする預かり保育が混在している。それぞれの部門の明確なねらいと目標を定め、子ども・保護者のみならず従事する教職員が組織を理解し、それぞれの重要性を感じる。

### ① 課題・施策の背景

歳児ごとに子どもとの関わり方や、必要とする教育・保育環境は大きく異なる。ゆえに、それぞれの部門で専門的な知識の向上に努め、より良い教育・保育を提供できるような組織を構築する。

### ② 施策

- 各部門リーダーの設置
- 目指す方向の見える化
- 教職員の共通理解
- 部門間の勉強会

### ③ ポイント

- 部門間の関係性
- 部門間での意見交換
- 目指す方向の提示
- 教職員周知の徹底
- 保護者周知の徹底
- 園内勉強会の計画性

## 施策2 本物に触れる経験の充実

子どもたちが、経験をとおりて興味関心を抱き、自ら選択する力を育むために、専門分野の講師を招き、本物に触れる経験を実現する。その中で「やってみたい」「やってみよう」という「意欲」を育てていく。

### ① 課題・施策の背景

教育・保育の中で、「ここは、すごい」という経験の場を提供していくことが、附属こども園のメリットとなる。教育・保育環境を整えることは、子どもたちに何かを強制するのではなく、子どもたちが自ら興味をもってやりたくなるような環境づくりである。

### ② 施策

- 英語教員の園内常駐
- 体育、サッカー、造形の継続
- 東明学林を利用した自然活動
- 大学講師の理科活動の継続
- 大学茶道部との茶道体験
- 大学、中高部吹奏楽部による音楽鑑賞体験
- ピザ窯を用いた食育体験

### ③ ポイント

- 日々の生活の中にある、リアルな英語環境づくり
- 定期的なEnglish アクティビティの実施
- 年間での計画的な活動の実施(体育・サッカー・造形等)
- 大学生、中高生との積極的なコラボ企画の実施
- 東明学林の積極的な利用
- ピザ窯の利用

## 施策3 学園・地域との積極的な連携

本学園は、ワンキャンパスの中にこども園から大学院そして、ブリティッシュスクール、テンプル大学があり、恵まれた環境である。この環境を十分に活用することで、教育・保育の質の向上並びに、園の広報活動につなげていく。また、地域の中心的役割を担うべき、近隣の施設との交流も視野に入れていく。

### ① 課題・施策の背景

新型コロナウイルス感染拡大の期間、学園内の交流並びに地域との交流を控えるようになり、貴重な経験が減少した。2023年度から徐々に交流が復活しつつあるので、より連携が活性化するよう計画・実行していく。昭和学園の一員であるメリットを明確化し、少子化対策にいち早く対応していけるよう、広報活動に力を入れる。

### ② 施策

- 大学生のアルバイト受け入れ
- 実習、ボランティアの受け入れ(大学院、大学、中高部、BST)
- 初等部の授業とのコラボ
- 留学生の保育体験の受け入れ
- HP、SNS等の情報発信の充実
- 入園希望者へのアプローチ
- 在園保護者への初等部説明会
- 地域子育て事業の継続

### ③ ポイント

- 年間を通して継続していく
- より良いふれあいと学生、生徒の学びの相乗効果
- 就学を視野に入れた、効果的な交流
- 学園の国際交流センターとの連携強化
- HPやSNSはこまめにアップデートしていく
- 入園希望者向けの体験会の実施(英語、体育、造形)



## 法人部門

### 経営基盤の強化と教育環境の整備

#### 将来像実現に向けたメッセージ

「世の光となろう」の建学の精神のもと、中期方針では、①自立・自律し、グローバルに活躍する人材の輩出 ②ステークホルダーによる昭和コミュニティの形成 ③組織体制の強化及び教職員のエンゲージメントの醸成を掲げ、経営基盤強化・人事及び組織の活性化・キャンパス整備・ステークホルダーとの関係強化・広報活動の充実、の3つを具体的行動の骨子とした。

3年目となる本年度は、寄付制度の整備とステークホルダーとの関係強化、ガバナンスとリスクマネジメントの強化、安定的な財務基盤の強化、計画的な採用と登用・育成、教育環境の整備、ブランド戦略の再構築と情報発信力を高め、グローバル教育、キャリア支援の推進等、変化に対応して新しい学びの機会や環境の整備を図る1年としたい。

これらを通して、設置校の中期方針(大学:確かな学力の基礎の上に他者と協力・連携して社会的問題に取り組む人材の育成、附属校:先駆的な教育を推進すると共に、組織体制の強化、キャンパス内外との連携を深める)を推進し、社会的に評価される学園を目指したい。

学園本部長 沼 明彦

#### 将来像実現に向けた施策

- 1 | 安定的な財務基盤の強化
- 2 | ガバナンスとリスクマネジメントの強化
- 3 | ステークホルダーとの連携強化と寄付制度の充実
- 4 | 計画的な採用・登用・育成、教職協働の推進
- 5 | 教育環境の充実・整備
- 6 | ブランド戦略の再構築と情報発信力の強化

### 施策1 安定的な財務基盤の強化

学園の永続維持のため安定した財務基盤の強化を図る。教育・研究の向上に必要な投資を継続して行うと共に、学園の将来構想の実現に向けた収入を確保しながら事業活動収支の均衡を図る。

#### ① 課題・施策の背景

収入面では入学対象人口の減少と女子高・女子大志向が低迷する中で、安定した学納金収入の確保をいかにして実現していくかが当面の課題となる。併せて学納金以外の収入確保も必要となる。支出面では光熱水費や物価、人件費の上昇等の要因により増加傾向にある中で、今まで以上に無駄な支出の削減に努め適切な予算管理をすることで、健全な財政状況を維持する。

#### ② 施策

- 大学部門学費の検証
- 補助金収入増額に向けた検証
- 効率的な資産運用
- 将来構想特定資産への繰入
- 教育活動充実に向けた予算措置
- 適切な支出を促す予算執行管理
- 各種財務比率の目標と実現
- 学園の経営状況の把握と理解

#### ③ ポイント

- 大学部門の収支構造や社会情勢を鑑みた学費の検証
- 補助金配分基準の検証と獲得要件達成に向けた取組
- 資金運用委員会による効率的な資産運用の見極め
- 重点項目への予算配分
- 予算執行状況の適時開示
- 学内に向けた経営状況の情報発信と周知徹底

### 施策2 ガバナンスとリスクマネジメントの強化

ガバナンス強化と健全性の向上により、持続的な社会価値の創造に寄与すると共に、学園に関わるあらゆるステークホルダーへの説明責任を果たす。加えてリスクマネジメントを強化する。

#### ① 課題・施策の背景

本法人は、教育機関としてのあらゆるステークホルダーの負託に応え、持続的な社会価値の創造に寄与する使命を帯びている。その使命を遂行するためには経営性の透明、信頼性やリスク管理の向上に邁進しなければならない。

#### ② 施策

- 堅固なガバナンス体制の確立
- 危機管理体制の強化
- キャンパス・ハラスメント第三者委員会との連携強化
- コンプライアンス体制の強化

#### ③ ポイント

- 改正私立学校法施行に向けた理事会・評議員会体制の再構築と相互牽制機能の強化
- 内部統制システムの検証及び不正防止体制の強化
- キャンパス・ハラスメント防止研修の実施

### 施策3 ステークホルダーとの連携強化と寄付制度の充実

「昭和コミュニティ」を形成し、卒業生をはじめ学園に関わるステークホルダーとの関係強化に努めるほか、寄付制度の充実による募集活動の更なる推進を目指す。

#### ① 課題・施策の背景

本学は2020年度に創立100周年を迎えたが、次なる1世紀に向け学園の持続的な発展のためには、多様なステークホルダーからの信頼獲得が必要となる。また、大学にとって寄付金は、今や主要な財政基盤であり、学生の教育環境充実のために寄付金収入を安定的に確保することが、重要な課題となっている。

#### ② 施策

- 同窓会・卒業生・在学生との連携強化
- 卒業生・保護者・企業をはじめ、多様なステークホルダーから成る「サポーターズ・クラブ」の組織力強化と、学園との連携強化
- ステークホルダーの共感を得られるファンディングの展開

#### ③ ポイント

- ホームカミングデーの実施
- サポーターズ・クラブ会員の満足度向上に向けた企画の立案と実施
- 寄付者のニーズに応える多様な寄付ルートの確立
- 寄付募集力の強化
- 寄付募集活動における大学産官学プロジェクトの連携

### 施策4 計画的な採用・登用・育成、教職協働の推進

中期方針の重点目標である「組織体制の強化及び職員のエンゲージメントの醸成」の実現に向けて、現行の職員の人事制度を見直し、新たな人事制度の策定と運用を遂行する。

#### ① 課題・施策の背景

法人及び大学の運営に関する業務が多様化・専門化する中で、職員に求められる知識・スキル・マインドも変化している。その中で、2023年度に新たに設定した「目指すべき職員像」と連動して、採用から退職までの一貫した職員の賃金人事制度の構築と公平な評価制度の運用が必須である。本学が持続的に質の高い教育の提供を行うため、教員の働き方について見直しや必要に応じた施策が必要である。

#### ② 施策

- 複線型人事制度の設定
- 職員研修体系の整備
- 職員の適正な業務評価の実行
- 新たな賃金テーブルの運用
- 関連法令改正及び学園改革に即した就業規則等の整備
- 教員の働き方に関する制度設計・処遇等の整備の検討
- 働き方改革及び人材確保等の課題を踏まえた人件費比率の維持
- 教職員の年齢構成、定年退職等の離職者推移を踏まえ、機能的な人員構成と世代交代の円滑化を踏まえた採用・昇進・人員配置

#### ③ ポイント

- 各職員のキャリアパスを把握し、総合職と専門職から選択できる制度を設定する
- 学外研修だけでなく、定期的な学内研修の実施と、それらを踏まえた研修体系の構築を検討し構築する
- 目標管理制度に拠る新たな人事評価制度に基づき、職員の適正な業務評価と処遇の改善を行う
- 関連法令を踏まえコンプライアンスに則した就業規則の策定を進める

### 施策5 教育環境の充実・整備

学園の「使命」MISSIONと「将来構想」VISIONを实践する場、ステークホルダーによる昭和コミュニティ形成の場として、持続的な発展に寄与するキャンパスグランドデザインの更新、既存施設（人見記念講堂・光葉博物館・研修学寮等）の有効活用に資する体制強化、既存インフラ設備強化・更新を実施する。

#### ① 課題・施策の背景

少子化による大学存続競争が激化する中、社会ニーズの変化に伴う学びの多様性が変化し、大学の使命・存在価値がより問われている。本学の特色や強みを活かし、これからも持続的な発展をしていく上で、関連施設の有効活用と課題である老朽化建物・既存不適格建物の解消等、総合的な視点から、学内外のニーズに即応した効果的・効率的な教育環境の整備が必要不可欠である。

#### ② 施策

- キャンパスグランドデザインの更新
- 省エネ機器更新
- 自然エネルギー採用の検討
- 研修学寮施設ネットワーク更新
- 初等部新コース教室改修(2期)
- 教室什器更新
- 教室視聴覚機器更新
- 既存施設の有効活用

#### ③ ポイント

- 関係行政協議資料作成
- 消費電力量・CO2の抑制
- 自然環境保全
- 教室・共有スペースでのネットワーク利用
- グローバル化推進
- アクティブラーニング対応
- 諸施設・設備の維持更新
- 組織体制の強化

### 施策6 ブランド戦略の再構築と情報発信力の強化

年間を通じた発信メッセージ、キービジュアルを開発。多様なメディア、広報媒体、WEBサイト、SNS等で統一した情報発信、ターゲットに向けた情報発信を展開する。

#### ① 課題・施策の背景

低い出生率・少子化による入学対象人口の減少と女子校・女子大志向の低迷下の中、優秀な入学者を確保し、教育の充実と学園が目標とする人材育成を推進しなければならない。そのために選ばれる教育機関となるよう、大学を中心にブランドを高める広報、情報発信を行う必要がある。多様なメディアやWEBサイト、SNS等で広報を展開する。

#### ② 施策

- 国際学部改組を中心として広報
- プレスリリース方法の向上
- SNSの更なる活用
- 動画制作の推進と活用、展開
- WEBサイト構築と効果的な運用
- 多様なメディアへの広報と広告
- 昭和女子大学出版会の充実
- 広報企画の立案と試行

#### ③ ポイント

- 広報メッセージ、ビジュアルの開発
- プレスリリースの配信計画
- 動画制作内製化(教職員、学生)の推進
- 広報効果のモニタリング